

## 会 議 録

会 議 の 名 称	平成 29 年度第 3 回広報広聴推進委員会（全体）	
開 催 日 時	平成 29 年 12 月 8 日（金） 10:00～10:30	
開 催 場 所	宍粟市役所北庁舎 4 階 401 会議室	
議長（委員長・会長） 氏 名	鎌田 恵司	
委 員 氏 名	（出席者） 委員：鎌田恵司、平野安雄、大柿直記、前野良造、 前井真貴、加藤智子、樽本勝弘、梶本 愛、古根川淳 也、小野文乃 広報広聴アドバイザー：井関崇博 計 11 名	（欠席者） 春名豊滋、高田佳一
事 務 局 氏 名	企画総務部 上長正典 秘書広報課 三木義彦 小河秀義 西嶋知栄 宮辻貴之 上月恭子 杉元伸弥	
傍 聴 人 数	なし	
会議の公開・非公開の区 分 及 び 非 公 開 の 理 由	公開・ <del>非公開</del>	（非公開の理由）
決 定 事 項	（議題及び決定事項） ① L I N E（ライン）の取組みについて報告 ②広報広聴推進委員会の運営を部会制とすることについて、出席者全員一致により了承。	
会 議 経 過	別紙のとおり	
会 議 資 料 等	別紙のとおり	
議 事 録 の 確 認	（委員長等）	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
	<p>1. 開会 (三木課長より)</p> <p>2. あいさつ (鎌田会長)</p> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <p>4. LINE (ライン) の取組みについて (事務局より) 資料4ページ～6ページにより、宍粟市がLINE (ライン) により市の情報発信することの説明を行う。</p>
会長 事務局	<p>何時から行うのか?</p> <p>既に、LINE@のアカウントは取得しているが、本格的な実施は、12月18日の記者懇談会で発表し、本格実施したいと考えている。</p>
委員	<p>あまり頻繁に情報を発信すると受け手側に拒否されるので、適度の発信としてください。また、発信のルール作りもしておく必要がある。</p>
事務局	<p>秘書広報課でも、他市の取組み等を調査するなかで、適度な情報発信を心がけたい。当分は、月2回程度と考えているが、週1になる場合も想定している。</p>
委員	<p>受け手として、国見の森や文化会館、市も含めて週末のイベント情報などを提供してもらうと、興味があれば、行ってみようと思うので、週末前に発信するような方法が良いと思う。</p>
事務局	<p>その様な方法も含めて、発信方法も検討したい。</p>
アドバイザー	<p>ラインについて、どの部で議論するか決めるべきか?</p>
事務局	<p>各部に横断的に必要なツールとなると思う。全体会議のときに、議論の材料としたい。</p>
	<p>&lt;協議事項&gt;</p>
委員	<p>3. 広報広聴推進委員会の運営方法の変更について (事務局より) 資料1ページから3ページにより、広報広聴推進委員会の中に部会をつくり、</p>
事務局	<p>テーマを絞って議論し、より充実した委員会となるようにすることを提案。</p>
委員	<p>先ほど、29年、30年度計画で部会運営し、30年度秋ごろに答えを出すとの提案があったが、この委員会自体は、諮問機関的な要素は無いのか?</p>
アドバイザー	<p>この委員会は、諮問機関では無い。また、各委員の任期が平成30年度末までとなっているため、任期中に委員会の中で成果を出していただくこととなる。</p>
事務局	<p>定住・移住シティープロモーションの議題であるが、シティープロモーションに取り組むのであれば、交流人口の増加等についても含めて議論することが出来ないか。</p>
	<p>議題を決める中で、交流人口や観光の面をどうするか議論をしたが、1年ほどの期間で議論するとすると、少し幅を狭める方が良いのではとの判断と、移住・定住の担当が企画総務部の所管ということもあり、今回は、移住・定住に絞ることで提案させていただいた。</p>
	<p>市の都合等もあり、観光は産業部の所管で、全ての会議に職員の出役が難しいため、今回は見送らせていただいている。ただ、移住・定住を議論される中で、観光等の部分も必要な場合は、産業部にも協力依頼する。</p>
会長	<p>では、事務局より提案のあったとおり、部会制により委員会を運営することよろしいか。</p>
各委員	<p>異議なし。</p>

## 会 議 録

会 議 の 名 称	平成 29 年度第 3 回広報広聴推進委員会 A部会 (地域住民への情報発信部会)	
開 催 日 時	平成 29 年 12 月 8 日 (金) 10:00～11:50	
開 催 場 所	宍粟市役所北庁舎 4 階 401 会議室	
議長 (委員長・会長) 氏 名		
委 員 氏 名	(出席者) 委員：鎌田恵司、古根川淳也、前野良造	(欠席者) 委員：春名豊滋
事 務 局 氏 名	秘書広報課副課長 小河秀義 情報通信係主事 杉元伸弥	
傍 聴 人 数	なし	
会議の公開・非公開の区 分 及 び 非 公 開 の 理 由	公開・非公開	(非公開の理由)
決 定 事 項	(議題及び決定事項) *内容 ・情報発信(しそチャンネル)の現状と課題 ・しそチャンネルの加入促進の取組について ・しそチャンネルのPRについて ・今後の部会運営方針について	
会 議 経 過	別紙のとおり	
会 議 資 料 等	別紙のとおり	
議 事 録 の 確 認	(委員長等) ー	

## (会議の経過)

発言者	議題・発言内容
事務局	<p>○開会(全体会から引続開催)</p> <p>・地域住民への情報発信についてA部会の協議を部会用次第に沿って進めさせていただきたい。合併後の防災・行政情報の一元化と地上デジタル放送対応等のために光ケーブル網の整備を行い、しーたん通信やしそチャンネルが開始された。当初、しそチャンネルは文字放送が主だったが、現在は動画を中心とした番組となっている。これまで委員会等でいただいたご意見を取り入れたものとしてハイビジョン画質放送への対応、撮影編集業務経験者の参画等がある。このようにハード・ソフトの両面から番組内容の充実に取り組んでいる。一方で、視聴料の無料化やテレビ大阪の放送等は、制度面等から実現困難な状況がある。引き続き対応が必要なものとして、加入率の向上や視聴料金の見直し検討、魅力的な番組作りがある。企画番組の制作等を中心に組み込んでいきたいと考えている。</p> <p>・新たな取組を進めるために放送専門員を増員し、空き会議室をスタジオとして活用して、ニュース形式番組の放送を開始した。また、サイクリスト向けの手作りPR動画を職員協力のもとで作成した。この動画は、放送専門員に撮影してもらっている。加入率について、市全体では52%の加入率だが北部から南部へ人口が流出している状況を見ると、アンテナでの電波受信可能な地域に人口が集中し、加入率が減少する恐れがあり、より魅力的な番組作りが重要と考えている。</p>
委員	<p>・約52%の加入という話があったが、難視地域の方がテレビを観るために加入しているのがほとんどであって、しそチャンネルを観ていない人もいるのでは。</p>
事務局	<p>・ご指摘のとおり、テレビ視聴のため加入している人が多い。市としては、広報紙やしーたん通信では出来ない、映像と音声での情報発信ツールとして、また緊急情報の発信に活用し、加入者を増やしたいと考えている。</p>
委員	<p>・姫路ケーブルテレビに加入することでテレビ、ネット、電話に加入することで利用料金の割引があり、便利だと感じている。</p>
事務局	<p>・民間サービスとしての充実については、今後も姫路ケーブルテレビに協力を依頼したい。</p>
委員	<p>・山崎町内では、別会社のインターネットサービスが普及している。解約してまで変える人がどれくらいいるか。サービス切替に費用が発生するのか。</p>
事務局	<p>・解約の状況は把握が難しい。費用については、サービス切替時に手数料が発生する。</p>
委員	<p>・その費用は市からは出していないのか。</p>
事務局	<p>・出していません。</p>
委員	<p>・千種町等でテレビ工事があったときには補助があったのでは。</p>
事務局	<p>・テレビについては、自己負担となっていた。</p>
委員	<p>・町別の加入率はどの程度か。千種は100%近いのでは。</p>

事務局	・千種、波賀、一宮の北部や山崎のアンテナ受信困難エリアはほぼ100%です。山崎町全体は約30%となっている。
委員	・アンテナで観れるところの加入率を増やすには、受信料に見合うよう、しそチャンネルの魅力を高めるしかない。
事務局	・ご指摘のとおりと考えます。そのための取組として、ハイビジョン化や企画番組の制作を実施している。
委員	・一宮はどのあたりまで電波が受信できるのか。
事務局	・国道沿いでは曲里橋付近まで、その他は閨賀のあたりが受信可能です。人口集中地が電波受信可能な地区となっている。
委員	・電波受信可能な地区に人が流れているので、このままいけば加入率は減る方向になるのではないかと。加入率向上も大事だが、加入率を維持する施策も必要と考える。
事務局	・ご指摘のとおり、加入率を低下させない取組も必要と考えている。
委員	・広報ツールとしてのしそチャンネルの役割はどういう部分と考えているか。
事務局	・障害があるために広報やしそ通信では情報を得られない方への情報発信や河川増水情報等、テレビでないと伝わらない情報の発信手段として、大変有効であると考えている。
委員	・災害時の情報については、避難所情報や河川カメラ等が一度に確認できるので非常に便利に感じている。
事務局	・避難所情報等は、防災メールと連携しており自動的に情報が発信できるようにシステムを構築している。
委員	・若年層はネットで確認することができるが、ネットに不慣れな高齢者はテレビで確認できるので助かっていると思う。
委員	・必要に迫られて入る人たちはすでに加入しているのではないかと。山崎の人はしそチャンネルを観たことがないという人も多いのではないかと。多くの人に観てもらえるように、イオン等で放送してみてもどうか。
事務局	・ご提案いただいた内容について、検討したいと考えている。
委員	・料金についても、値下げは難しいと思うので、現在の年払いから月払いに変更できれば1回の支払額が小さくなるので、費用負担の抵抗も少なくなるのではないかと。
委員	・しそチャンネルのネット配信は検討出来ないのか。
事務局	・ネット配信するという事は、ケーブルテレビへ加入しなくても無料で視聴可能となつてし

	<p>まう。姫路ケーブルテレビでは、テレビのネット配信は現在は行っていないと聞いている。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての番組ではなく一部の番組をネット配信することで興味を引けるのではないか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月から開始したしそ情報BOXをネット配信する等は、検討したい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経費はどのくらいかかっているのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフラとして活用している光ケーブル網の維持費としては年間1億円程の経費がかかっている。</li> <li>・しそチャンネルの部分で言えば、職員人件費と番組製作費が中心となる。金額については、詳細資料を別途提示させていただく。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加入率が増えることで収入が増え、運営費を補填できるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・姫路ケーブルテレビへの光ケーブル貸付本数の増加となる。1本あたり月額300円の貸付料となっているので、収入は増える。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今はどの程度の加入数があるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビが7,200件、ネットのみが570件程度の加入があります。年間収入額としては2,800万円程度が入ってきている。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本日頂いた意見について検討させていただきます。次回は、情報通信係から番組制作スタッフを交えて、番組企画についてご意見を伺いたい。</li> </ul>

## 会 議 録

会 議 の 名 称	平成 29 年度第 3 回広報広聴推進委員会 B 部会（広聴事業の充実部会）	
開 催 日 時	平成 29 年 12 月 8 日（金） 10:30～11:30	
開 催 場 所	宍粟市役所北庁舎 4 階 401 会議室	
議長（委員長・会長） 氏 名		
委 員 氏 名	（出席者） 平野副委員長、大柿委員、小野委員、梶本委員	（欠席者）
事 務 局 氏 名	秘書広報課長 三木義彦 秘書係長 西嶋知栄 広報係主査 上月恭子	
傍 聴 人 数	なし	
会議の公開・非公開の区分及び非公開の理由	公開・非公開	（非公開の理由）
決 定 事 項	<p>（議題及び決定事項）</p> <p>&lt;意見交換で出された意見&gt;</p> <p>① 住民票等において市外に出ている学生に情報発信できるようにしては、</p> <p>② 陳情・要望等に対する回答は、確実に行うとともに、早く対応すべき。</p> <p>③ 各広聴事業について、市民に分かりやすいネーミングにするできでは、</p> <p>④ タウンミーティングは、テーマを絞り、回数も減らすなど方法を検討すべき。</p> <p>⑤ 若者の会議は、同世代での意見交換とか、意見が出しやすい方法を検討すべき。</p> <p>⑥ 高校や消防団、PTA、会合等の場に出向き、意見を聞くような取組みが良い。</p> <p>次回は今回出された意見を整理し、テーマを絞ることとなる。</p> <p>次回日程は、2月7日（午前中）を予定</p>	
会 議 経 過	別紙のとおり	
会 議 資 料 等	別紙のとおり	
議 事 録 の 確 認	（委員長等） ー	

## (会議の経過)

発言者	議題・発言内容
	<p>広報広聴推進委員会（広聴部会）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自己紹介</li> <li>2. 事務局より現状・課題説明 ⇒三木課長により資料に基づき、平成29年度の広聴事業の取組みの状況を説明する。</li> <li>3. 意見交換・方向性の調整 ⇒説明後、意見交換（次のとおり）</li> </ol>
委員	陳情・要望の中には、市民局に出した内容も含まれているのか？
事務局	市民局で解決（完結）できた内容は、含まれていない。
委員	陳情・要望を、直接本庁に出されることはあるのか？
事務局	山崎管内の要望書等は、そのような扱いになる。
委員	ふるさと市民制度の確認として、会費等はあるのか？年齢層は、どのくらいか？場所的な範囲は、どの辺りか？
事務局	以前は有料であったが、途中から無料としている。年齢層は、若い方から高齢者まで幅広い層となっているが、50歳以上の方が多いのかなと思う。場所は、県内の方が多いが、東京などもおられる。
委員	では、提案として、市内の雇用対策としても、特に市内に住民票を置いている学生へ市の情報を発信していく必要があると思う。
事務局	今度、成人式等があるため、その時に、ふるさと市民の登録の依頼等する予定としている。また、高校を卒業する生徒に対しても登録の依頼をしていこうと考えている。
委員	陳情・要望等の回答する場合に、なるべく早く返していくことが重要である。特に、十分な対応が出来ないときほど早めに回答を返す方が良いと思う。回答が遅れると、要望者は不信感を持つようになる。
委員	私の経験では、女性の会合などで出た意見について、回答等が無い場合に、そのようなことを言われていることを聞いたことがある。やはり後日回答するといった回答をした場合には、きっちりと返していくような対応をしておく必要がある。市民とキャッチボールをきっちりとしておくべきである。
事務局	言われるとおり、意見を聞いただけにならない取組みとする必要がある。丁寧な対応をする。
委員	先ほどの説明で、色々な広聴の取組みがあることが分かったが、その事業の名前を聞いても、市民からするとイメージが湧かない。市長と話をするなら、この名前といった分かりやすいネーミングにするのが良いのではないか。
事務局	確かに、事務局の職員は分かっているから分かるが、同じような横文字を使っており分かりにくい部分もあり、工夫の余地がある。
委員	今回のタウンミーティングは、テーマが多く、市民からすると分かりにくかったのではないか。また、議員の懇談会もあり、時期も集中していたこともあり、参加しにくいのではないか。もっと、テーマを絞って回数を減らしてするような方法も検討してはどうか。
事務局	確かに、今回は、3つのテーマとしたことや各地域の会場で行ったことなどから回数は多くなった。 事務局としては、この部会で、このタウンミーティングのあり方などを中心に議論いただき、より良い方法を提案できればと考えている。
委員	今回のタウンミーティングの場合、チラシはあるし、しーたん通信では、何回も流れており、市民としても、どこに行っても良いのかも分かりにくい。
委員	様々情報発信をしても、若い世代にすると、広報紙は見ないし、しーたん通信が流れる時間に家にはいないことで、情報が届かないということとなっている。



委員	<p>また、若者は、本当に意見が言いたいと思った人なら、タウンミーティングに参加すると思うが、ほとんどの場合が、参加したら何か聞かれたら、何を言うたら良いのかなど考えることで、参加しようとはしないのではないかな。</p> <p>若者の意見を聞こうとするなら、LINE（ライン）などのアンケート機能を使い、回答したら特典をつけるような方法で意見を聴取する方が良いのではないかな。</p> <p>タウンミーティングの件で、今、地区別でされているが、自治会などを中心とした団体に任意で参加してもらう方法は限界がきているのではないかな。少し切り口を変えて、PTA、商工会、消防団などが集まる場所に出向いて行って、そこで意見を聴取するような取組みにする方が良いのではないかな。</p> <p>それと、パブコメの意見が0件となっている現状は、由々しきことではないかな。せっかく行うのであるから、市民の意見が少しは入るようにするべきで、市民の方に情報が伝わっていないのか、原因をこの部会で調査することも必要ではないかな。</p>
事務局 委員	<p>わかりました。そのことも含めて、部会では、検討してもらいます。</p> <p>なかなか若者が集まる場所が無いので、高校などで意見を聞くようにするのも良いのではないかな。</p>
事務局	<p>今、伊和高校などでは、拠点整備の件などで意見交換できる機会を設けているが、意見としてはよい意見と思う。</p>
委員	<p>実際、タウンミーティングでは、市役所の方もたくさんいるし、他の人数が多い中で、何でも言うてくださと言われても、言いにくい状況がある。</p>
委員	<p>若者世代にとっては、同世代の方同士で意見を出し合うような形の方が良いのではないかな。</p> <p>若者は、行政的なことの発想が無いので、本当に何でも意見が出せるような雰囲気の会を開いて、意見を出し合うようにしてはどうか。</p>
委員 事務局	<p>一宮のI好会の取組みなどが、他でも出来ないか検討してみる。</p> <p>今回出された意見を整理させていただいて、次回に、もう少し、的を絞っていきたいと思う。また、早めに対応する方が良いものは、即対応できるようにしたい。</p> <p>次回の日程について、2月7日午前中予定。また、連絡する。</p>

## 会 議 録

会 議 の 名 称	平成 29 年度第 3 回広報広聴推進委員会 C 部会 (移住・定住に向けたシティプロモーション部会)	
開 催 日 時	平成 29 年 12 月 8 日 (金) 10:30~11:30	
開 催 場 所	宍粟市役所北庁舎 4 階 401 会議室	
議長 (委員長・会長) 氏 名		
委 員 氏 名	(出席者) 井関准教授、前井委員、加藤委員、樽本委員	(欠席者) 高田委員
事 務 局 氏 名	企画総務部次長 上長、広報係長 宮辻、(欠席：地域創生課係長 池田)	
傍 聴 人 数	なし	
会議の公開・非公開の区分及び非公開の理由	公開・非公開	(非公開の理由)
決 定 事 項	(議題及び決定事項) <意見交換で出された意見> ① この部会のターゲットとする層は宍粟で子育てをしようとする世代。 ② 移住・定住をPRするためには仕事と結びつけていかないといけない。 ③ 定住相談会などにも、仕事の情報を持っていくことが必要。 ④ 移住者にインタビューをして、それを発信していく。 ⑤ 今後の進め方は、まず事務局で移住者をピックアップし、委員でインタビューを考える。そのインタビューをホームページや移住相談会などで活用していく。 次回日程は、1月中(月・火・木)を予定	
会 議 経 過	別紙のとおり	
会 議 資 料 等	別紙のとおり	
議 事 録 の 確 認	(委員長等) ー	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
	<p>【C部会：移住・定住に向けたシティプロモーション】</p> <p>～自己紹介～</p>
事務局	資料（タウンミーティング資料を抜粋したもの）の説明
事務局	次第の3番に進むが、今いったような課題や、情報発信のことなどについて、意見や課題を共有したうえで進めていきたい。どこをめざしていこうかというところを最初に相談させていただきたい。
アドバイザー	先ほど転入の話があったが、430人の転入があったということを詳しく話してほしい。
事務局	細かい資料はつけていないが、空き家バンクを利用して転入した人の内訳は8ページのとおりである（14世帯34人）。空き家バンクの登録は、仕事をしている世代も多いが、仕事を終えてスローライフを楽しみたいという人も多い。転入した人の中には、転勤や就職など仕事の関係で来たという人もある。
アドバイザー	転入した人が今どうしているかはわかるか。
事務局	そこまではわからない。
委員	その情報が欲しい。データとして、宍粟市を知ったきっかけと、宍粟市を選んだ理由、あと職業と家族構成。その人から見て、宍粟市に移ってよかったと思うことなどのアンケートはとってないか。そこにヒントが隠れているような気がする。
事務局	資料2ページに少しあるが、転出届を出された人に簡単なアンケートはとっているが、転入についてはとっていない。
委員	今から追いかけてアンケートをとることは可能か。リタイヤの人は想像がつくが、今回ターゲットとしようとしている、若い世代の情報は欲しい。
アドバイザー	マーケティングをしていく上ではそこが重要だと思う。
委員	直感で話をすることはできるが、データがあることでみんな同じように考えられると思うので。アンケートをとることはできないか。
事務局	戸籍の部署とも相談してみる。
委員	件数は多くないと思うので、できれば記述式のしっかりしたものを取りたい。今、（定住に関する）補助をしている人にはとれると思うが、それ以前に転入した人に住基情報を用いてアンケートするのは難しいかと思う。ここ2～3年のデータならとれるのではないか。市が補助金を出している人へのアンケートであれば可能で100件もないと思う。
事務局	空き家バンクで転入した人の情報は得ることができると思うが、結婚や仕事で転入した人は、年齢などくらいは調べることができるかもしれない。

委員	年齢よりは仕事。ここは仕事がない。地元に戻ってきたり、移り住んできてやりたい仕事があるなら良いが、お金を稼がないと生活できない。都会の人はみんな田舎で子育てがしたいと思っているが、仕事がないと「行っても食べていけない」となってしまう。
事務局	昔は子どもが学校に上がる段階で地元に戻ってきていたが、今は教育も人が多いところだと、帰ってこないようになってきている。
委員	今、子育てをしているが、子どもは大学で外に出ていこうと思っている。ここに帰ってくるきっかけがあるかどうか、子育てをしている人は同じ思いではないか。家業を継ぐとか、何かきっかけが必要。都会に比べて、選べる職種がないことと、ここならではの仕事をもってアピールしないと行けない。たぶん、ここならではの仕事というものもたくさんあると思うが、そのアピールがない。ここに新たに住んで、仕事を探そうというのは大変である。
委員	子育て世代の転入者のきっかけは、子どもを自然の中で育てたいということが大きい。その中で仕事や生業はどうするのかとなると、カフェ遊山の人のように農業をしながら飲食業をするとか、ここから姫路に通うとかが主なところだった。きっかけとしては、子どもを自然の中で育てたいというのが一番の理由だったと思う。定住相談会に行っても、「就職先はありますか」ということはよく質問された。そういう情報は、定住担当ではデータを持っていないし、産業部でもデータは持っていないと思う。それがあれば、相談会に行った時でも、仕事の相談にものれるかと思う。
委員	高齢者については、リタイヤして釣りを楽しんでいる夫婦が近所にもいるが、多くはそんな感じだと思うのでいいかと思う。これから子どもを育てるとなると、就職あつせんと一緒じゃないと、怖くて来れない。取組としてはいいことをたくさんしているので、仕事のところだと思う。あと、どこから移り住んできている人が多いのか。周辺市町か、県外か。
事務局	転出は姫路やたつのなど周辺市町が多く、Uターンはその人たちが帰ってきているのが多い。Iターンは、関東方面からというものもある。
委員	その人たちに話を聞きたい。どうやって実業を知ったのかを。
事務局	空き家バンクが充実しているので、事前にホームページを見て「この物件に住みたい」ということで、相談会に来られる方も多い。
委員	空き家バンクはいいと思う。近所にも空き家は多い。空き家なので暗く怖い感じがするが、そこに子育て世代が来てくれればうれしい。地域も活性化すると思うので。
事務局	今、「決めるまでの間体験住宅を貸してほしい」と申し込まれている人は、東京の人だったと思う。
委員	そういう人にアンケートは取れるか。
事務局	空き家バンク登録者なので、可能である。
委員	では、空き家バンク登録者へのアンケートという形でできればと思う。
事務局	実際に「実業で何がしたいか」などのアンケートはとっているのですが、新たにアンケートをすることも可能だと思う。

委員	こういうアンケートをとってほしいという要望を出せば、そういう内容でとれるのでは？簡単なもので設問なども決められるように思う。
委員	ただ、アンケートはとり方が難しい。下手にとると違う方に導かれてしまう。
アドバイザー	アンケートは数が多いと力を持つてくるが、数が少ないとインタビュー型で行ったほうが良い。グループインタビューと言って、何人かに集まってもらって、それをこちらで取材するという形。
事務局	それをしたのが、森の家族時間の中のスペシャルインタビューである。
委員	たぶん、こういう人は宍粟市に魅力を感じて移住してくださっているのだから、協力してくれると思うので、それに甘えればよい。
事務局	サイトを見てもらうと詳しくインタビューが見れるので、この辺りを充実させて生の声を拾えればと考えている。実際はサイトの更新ができていないが。
委員	ホームページ上では、作ると同時にサイトからどの人を連れてくるかということも重要になってきている。誘因策を同時に考えないと、作っただけになってしまう。どこのページを見ている人が、どのきっかけでということもネットの世界では重要。連れてくることをセットで考えたらいいと思う。作っただけでは目的に行きつかない。
事務局	実際に来年あたりに宍粟市ホームページのリニューアルを考えている。今の傾向を分析する中で、業者さんが工事や入札情報をとりに来るのと、空き家バンクや定住の関係から、宍粟市のサイトを訪問するのが多くなっているという結果が出ていて、そこが主流になってきている部分もある。そこから情報に上手につないでいくということが重要だという認識で、次回（予定では30年度中）のリニューアルの時には重要視していきたいという話はしている。
委員	トップページを変えるだけでもだいぶ変わる。
事務局	ほとんどの人がタブレットかスマートフォンから宍粟市のホームページに来られているという結果も出ているので、そういった人に見やすいホームページということと、どこからホームページを訪れているかという情報などを活かせるような方向で考えていきたいと思っている。
アドバイザー	先ほど出た移住・定住で仕事ということが重要になってくることは間違いなく、その時に宍粟市の産業振興といった文脈で、「こういう人に来てほしい」というターゲットニングがあればよい。例えば森林セラピーなどをしていて、健康とかスポーツとかそういった産業を増やしていきたいとか、森林の学校もできて森林に関する産業をもっと増やしていきたいといったような取組、そういう産業に関するターゲットの設定はされているか。
事務局	「森林から始まる生業づくり」という部分で、一般企業の助成にも力を入れているが、特に手厚いのは新規の林業関係になる。
委員	手入れが行き届いていないから、手入れができないから木を全部伐って、太陽光パネルを貼ってしまえというような場所も見かける。大雨の時大丈夫なのかと思うようなエリアもある。これだけ森を押ししているのであれば、きれいな森を維持しつつ、それを生活にも生

	かせるようになるとうれしい。
事務局	実際私が住んでいる地域は森林整備や路網整備が進んでいて、いくらか組合員に配当が入るようになってきている。今、山で個人に配当が来るということは、全国的にもない。そういう取組もされているので、そういったこともPRできればと思う。
アドバイザー	プロモーションという意味では、ターゲットがどこかということ、その人に何を伝えるかが重要。この部会のターゲットという意味では、リタイヤした世代ではなく若い世代ということになる。その次に若い世代のうち、単純に自然の中で子育てがしたいという人というだけでは非常にしんどい。こちら側としてはこういう世代に来てほしい、こういう産業の仕事についてほしいという要望があるのであれば、そういう人がどこにいるかということを探していくということになる。そうすると、その人に何を伝えるかということが明確になってくる。ターゲットをどこにするかと、何を伝えるか。そのためにもまずはインタビューで、今来ている人がどこから来て、何を求めて来ているかをまず聞いたうえで、スケジュール的には進めていけばいいかなと思う。
委員	井関先生のおっしゃるように対象を絞ったほうがいいかもしれない。例えば「宍粟では林業をする人を10名募集しています」というように。そこに来られた人に「子育てはこんな支援がありますよ」とか「空き家はこのようなのがありますよ」と情報を提供する。今は住むところありきで考えているが、結局生業がないということになってしまっている。林業であれば、こういう仕事がありますよと紹介するだけでよい。
事務局	仕事は姫路にはあるので、姫路に通うために山崎に住みたいということになるかもしれない。
委員	宍粟市でとなると宍粟市内で完結する仕事でないといけない。農業者募集とした中でも、例えば米農家募集とか条件を絞ってしまうことも考えられる。
委員	たつの市の駅前で「自然農法しかやりません」というところがあって、一緒に農業をしてくれる人を募集していた。そういうところには自然志向の人が来る。その人たちが魅力に感じるができる職業じゃないといけない。自然を破壊するような職業を誘致したところで、自然を求めてくる人には響かないと思う。
委員	林業は今仕事があるのか。儲かる感じもしないが。
委員	「低賃金だけど、自然の中だからいいでしょ」ということではダメだ。
事務局	低賃金と山が儲からないということは別の話である。山の持ち主には返ってくるお金は少ないが、山の仕事はたくさんある。山のしくみとして木を伐って売り出すが、途中には山で作業をする人の賃金などの費用がかかる。そこを引いていくと、最終的に山の持ち主に返ってくるお金がないということになってしまう。山が儲からないというのは、持ち主側の視点から見た時のこと。
委員	起業する人を募集するよりは、宍粟は林業に従事する仕事があるので、その従業員を募集するというほうが良い。それが生業としてあるということを伝える。
委員	起業はハードルが高い。
委員	林業の会社に来年の募集は何人あるかを確認したうえで、「来年度宍粟では林業者10名の

	募集があります」とか「子育て世代でも仕事がありますよ」という仕事を紹介しながら募集をしていけばいいと思う。
委員	若者も林業を学びたいのであれば、森林大学校に行けばいいし、それから仕事につなげられればなおさらいい。
委員	今までは、逆の視点で移住定住の取組を行っていたので、このような視点から取り組んだほうがいいかもしれない。「移住者来てください、住むところありますよ」と進めていたが、「仕事はどうですか」と言われると「仕事はないです」や「わかりません」としか答えられなかった。
事務局	体験住宅を借りられる人も、移住したいが仕事がないので、見つかるまでの間体験住宅を貸してほしいということになる。
委員	林業に限らず、他の企業でも従業員は募集していて足りない状態だと思う。今の就職は売り手市場なので。
委員	その情報の出し方や見せ方が重要だと思う。
事務局	募集しても来ない。チラシや新聞など募集の方法が悪いのではない。地元には全国シェアの何割をという会社もある。ただ、宍粟にあるだけで、家族から「市外の会社のほうが良い」と言われることもある。地元で誇れる技術を持つ会社があるが、なかなかそこに目がいかない。
委員	家と仕事をセットでアピールすれば来ると思う。こんな職が選べるということを伝えていく。空き家バンクは機能していると思うので、仕事が重要。
委員	定住相談会に産業部も一緒に行こうと話したこともあるが、「仕事の相談をされても答えられない」と言われた。職業の求人などの情報だけ持っていれば可能なのではないかとも思う。
委員	定住の担当と商工の担当が連携できればいい。定住の部署は情報量が大変なことになるが。
委員	宍粟で生まれた女性はどこで働いているのか。
アドバイザー	私のゼミに宍粟市出身の女子学生がいるが、彼女は地元に戻って就職する。
事務局	J Aや銀行や事務員が多いのではないか。
委員	女性でも農業好きな人はすると思う。宍粟 50 名山とか山ガールとか、おしゃれに宍粟の山に来てくれている人はいると思う。そういう人の中にも若者はいて、自然志向の人はいると思う。
アドバイザー	少し視点を変えて、姫路に通いながら宍粟に住むということのを売り出すことも考えられる。栃木県の宇都宮では「ダブルプレイス」という考え方があり。通勤時間次第というところはあるが、宇都宮に住んで東京に通う（東京にも住む）という取り組みをしている。宍粟市の場合は、姫路で仕事をして、自然の中で暮らすという考え方。

事務局	アンケートをとった中では、ストレスを感じない通勤時間は40分～45分程度である。山崎でギリギリというところ。北部まで行くと1時間から1時間半となってしまうので、毎日通勤はしんどいとなってしまう。
アドバイザー	宇都宮の場合は、宇都宮にも東京にも住む、地元が2つあるということ。
事務局	今、いろいろと話していただいた中で、「こう進めていけば」という意見は出していただいたので、今後はまずインタビューから取り組んでいき、次年度に向けて取り組んでいきたい。次回の日程は、2月ごろの（前井委員の都合の良い）月、火、木で開催したいと思う。
事務局	インタビューは全員で行くということか。
委員	まずは、インタビューの設計が必要だと思う。
アドバイザー	皆さん次第になるが1月でもいいかと思う。誰かインタビューをする人を事務局で選んでもらって、その人に何を聞くか、どういう形で聞くか、何人で聞くかということをお話しできれば。1月にインタビューの方法を決めて、2月にインタビューをしてという流れに。2～3件はやっておかないといけないと思う。
事務局	移住したての人とか、移住して1年たった人とかに、どう感じられているかを追跡していくことも面白いかなと思う。
アドバイザー	1月までにインタビューができる人をたくさん集めておいてほしい。
委員	空き家バンクを利用した移住者からピックアップしておけばよいと思う。
委員	最終的には、情報を持って相談会などに行くということが一番大事。高齢者は空き家の条件と家賃が安いということだけでもよいが、子育て世代は生業を成すための就職ということが必要。自分で起業する人は、ネット環境、光回線さえ整っていれば済むかもしれないが、今の仕事を辞めて移住となるとそうはいかない。仕事の情報を持っていくことと、行く期間（いつの時期に行くか）を絞ったら、いいかなと思う。
事務局	連携が大事。産業部などと市内の連携を図ることと、タウンミーティングなどでお母さん方からは教育環境を求められるので、そのあたりが重要。
委員	お母さん方から聞いても、教育の環境は近隣市町と比べても、劣っているわけではなく、良いほうだという意見が多い。高校卒業後出ていくということは、大学もないのではないと思う。
事務局	そこは、最終的に帰ってきてもらうという仕組みが必要かと思うが、それは別のところでの話になってくるので、今は子育て若者世代に対しての仕事の充実や、この仕事がしたいから実業に来たという風にしていきたい。
事務局	では、次回までに事務局側でインタビューの対象などをピックアップしておく。次回、質問の内容などを検討し、インタビューをしていく。その結果をもとに、来年度は、どうプロモーションしていくかという流れで進めていきたい。次は1月に行きたい。
アドバイザー	最初に詰めてやって、見通しができてからゆっくり進めていった方がよいと思う。最初に



事務局	<p>急がないと、何ができるかわからないので。</p> <p>この会の結果を、移住特別サイトに反映させていくようにしていきたい。</p>
-----	--